

# ウィズあい 大垣



学びあい、教えあい、支えあい、助けあいみんなで一緒に男女共同参画社会づくりを進めましょう

2026年（令和8年3月）第31号

近年、地方から若年者が大都市に移動する傾向が続いています。

総務省が2026年2月に発表した2025年の人口移動報告（年報）によると、東京都への転入超過は、女性が3万7880人、男性が2万7339人と女性が男性を約1万人上回り、特に若い女性の地方からの流出が目立ちました。男女比の不均衡は、未婚や少子化を加速させ、地域の活力低下を招く要因にもなります。

若者や女性に選ばれるために、どのような地域づくりをしていくべきなのか、令和7年度大垣市男女共同参画フォーラムで基調講演をいただいた白河 桃子様の講演内容を要約して報告させていただきます。

## しらかわ とうこ 白河 桃子 様

プロフィール：昭和女子大学客員教授、ジャーナリスト、作家

東京生まれ。私立雙葉学園、慶応義塾大学文学部社会学専攻卒業。

中央大学ビジネススクール戦略経営研究科専門職学位課程修了。

商社、外資系企業勤務を経て執筆活動に入る。2008年に中央大学教授の山田昌弘氏と『「婚活」時代』を上梓、婚活ブームの火付け役に。

内閣官房「働き方改革実現会議」内閣府男女共同参画局「男女共同参画会議専門調査会」などを歴任。少子化、働き方改革、女性活躍、ジェンダー、ダイバーシティ、人的資本経営などをテーマとする。

著書に『ハラスメントの境界線 セクハラ・パワハラに戸惑う男たち』（中公新書ラクレ）、

『働かないおじさんが御社をダメにする ミドル人材活躍のための処方箋』（PHP新書）など多数。



## 選ばれる地域づくり ～ジェンダーギャップ解消、働き方、人権と経済の視点～

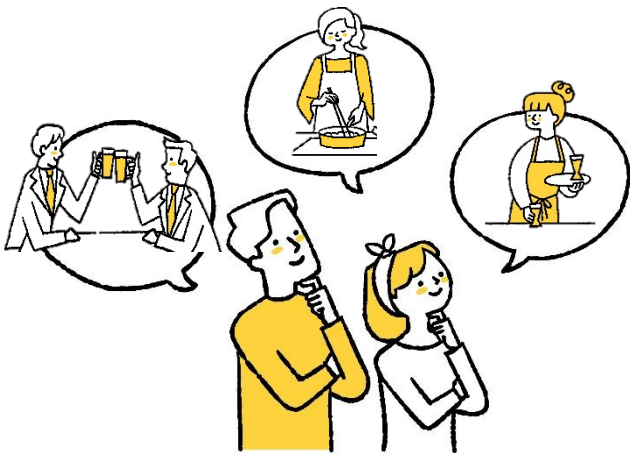
地方創生を進めるうえで重要なのは、「若者や女性に選ばれる地域になること」である。しかし、実際には多くの若い女性が地方から都市部へ流出している。その理由として、主に三つの課題が挙げられる。第一に、希望する進学先や働きたい仕事が地域に少ないこと。第二に、「女性だから」という理由で特定の役割を期待されること。第三に、結婚や出産に対する周囲からの強いプレッシャーである。地方自治体では少子化対策や女性活躍支援など様々な政策が行われているが、担当部署が分かれているため施策が連携していないことも多い。その結果、女性に対して「若いうちに結婚や出産をしてほしい」「働きながら家庭も守ってほしい」など多くの期待が同時に向けられ、負担や圧力を感じた女性が地域を離れる原因となっている。

日本では家事や育児の負担が女性に大きく偏っている。女性は男性の約5.5倍の時間を家事・育児に費やしている一方、有償労働の時間の差は1.7倍程度となっている。つまり、女性は家庭と仕事の両方を担っている状況にあり、その結果、賃金やキャリア形成において不利な立場に置かれやすい。特に出産後には「出産ペナルティ」と呼ばれる現象があり、第一子出産後10年間で女性の賃金は約46%低下する一方、男性の賃金は8%上昇するというデータもある。女性は産休や育休の後、時短勤務で復帰することが多く、その短い勤務期間が昇進や評価に影響し続けるためである。また、夫の扶養の範囲内で働くために勤務時間を調整する「年収の壁」も女性の賃金上昇を妨げている。



こうした男女賃金格差は、女性の活躍を阻害する要因のひとつとなる。賃金やキャリア機会が限られている地域では、女性がより多くの機会を求めて都市部へ移動する。その結果、地方では未婚男性の割合が増え、結婚の機会が減少し、少子化がさらに進むという悪循環が生まれている。つまり、少子化対策は婚活イベントのような個別の取り組みだけでは解決できず、男女賃金格差や雇用環境など社会構造の改善が必要となる。

さらに、社会や組織の中には「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」が存在する。例えば地域の集まりにおいて、女性が料理や配膳を担当し、男性は会話をするだけという役割分担が自然と行われることがある。職場でも女性は窓口業務や補助的な仕事を担当し、昇進につながる業務は男性が担うことが多い。こうした行動は必ずしも悪意から生まれるものではないが、結果として女性のキャリア機会を制限してしまう。



また、組織が似た価値観や背景を持つ人ばかりで構成されると、「同質性のリスク」が高まる。これは「集団浅慮（しゅうだんせんりょ）」と呼ばれ、集団の中で異なる意見が出にくくなり、誤った判断をしてしまう可能性がある状態である。多様な人材が意思決定に関わることで視点が広がり、問題の見落としを防ぎ、新しいアイデアやイノベーションが生まれやすくなる。そのため、ジェンダー平等や多様性の推進は倫理的な観点だけでなく、組織の成長や競争力の向上にも重要である。

地方での具体的な取り組みとして、豊岡市の事例が紹介される。豊岡市では、10代で地域を離れた若者のうち、20代で戻ってくる割合を調査し

たところ、男性が半数以上であるのに対し、女性は約4分の1しか戻らないことが明らかになった。そこで市はジェンダーギャップの解消を人口減少対策の中心に据え、市役所の働き方改革や地域企業への働きかけを進めた。女性のキャリア機会を増やす取り組みや企業との連携によって職場環境の改善を進めた結果、女性の地域回帰率の向上や働き方の変化が徐々に見られるようになった。

また、男性の家事・育児参加も重要な要素である。研究によれば、正規雇用男性の労働時間を平日1日2時間短縮するだけで出生率が0.35上昇する可能性があるとされている。長時間労働が続く環境では結婚や出産、育児に関わる時間が確保できないため、働き方改革は少子化対策としても重要である。男性の育児休業取得を促進することにより、家庭内の負担を分担し、女性が仕事を続けやすい環境を整えることが求められる。



さらに、意思決定の場における女性の割合を増やすことも重要である。一般的に女性が3割以上になると少数派として扱われにくくなり、意見が組織の意思決定に反映されやすくなるとされる。この「3割」という数字はクリティカルマスと呼ばれ、多様な意見が可視化されるための重要な目安とされている。

今後の社会では人口減少が進み、従来の長時間労働を前提とした働き方では持続的な成長は難しい。多様な人材が能力を発揮できる環境を整え、柔軟な働き方を実現することが求められている。ジェンダーギャップの解消は単なる平等の問題ではなく、地域社会や企業の持続的な発展につながる重要な課題である。私たちは日常の中で当たり前とされてきた男女の役割や組織の在り方を見直し、多様な人が公平に活躍できる社会を目指していく必要がある。



令和7年度

## 男女共同参画フォーラムを開催しました！

市は、大垣市男女共同参画推進連絡協議会との共催により、令和8年1月24日にスイトピアセンター音楽堂にて男女共同参画フォーラムを開催しました。テーマを「あなたがまちを変える ～魅力ある地域づくりのために～」とし、男女が互いに尊重し、だれもがいきいきと活躍できる男女共同参画社会の実現に向けて考えました。

### 【基調講演】

白河 桃子 様より、若者や女性に選ばれる地域になることの重要性などについて『選ばれる地域づくり～ジェンダーギャップ解消、働き方、人権と経済の視点～』と題し、講演いただきました。

ジェンダーギャップが解消されないことで、どのような問題があるのか、いろいろな方面からその影響について考えることができました。また、問題について数値を知ることができ、より具体的に現状をとらえることができ、地方での取り組みの実践例を知ることで、いま私たちにできることをしっかりと考えることができました。



### 【分科会報告】

男女共同参画フォーラムの開催に先立ち、12月に開催した4つの分科会について、各企画運営団体から報告を行いました。

全体会のテーマに沿って、地域活動や働き方、家庭との両立、女性の視点に立った防災などの課題について、各分科会で話し合い、理解を深めた内容の報告がありました。課題の発見やその解決方法など、各分科会の詳しい内容については、前号のウィズあい大垣に掲載しています。



### 【男と女のががやきまちづくり表彰】

大垣市では、男女共同参画社会づくりへの意識の高揚並びに実践活動の促進を目的として、男女共同参画を積極的に推進し、その功績が顕著であった個人や団体、事業者の方を表彰しています。

令和7年度は、「個人及び団体の部」において、栗田 恵世（くりた やすよ）様、「事業者の部」において、社会福祉法人 北農（ほくしん）様を表彰し、男女共同参画フォーラムにて表彰式を行いました。



### 【参加団体の活動に関するパネル展示】

男女共同参画推進連絡協議会の参加団体及び、男女共同参画センター登録団体の活動に関するパネル展示を行いました。

1年間を通した各団体の取り組みや行事等について写真を交えて紹介されました。

（参加団体）

大垣夢ある女性の会、大垣人権擁護委員協議会（大垣市）、大垣市くらしのセミナー、大垣市食生活改善協議会、大垣市赤十字奉仕団、大垣市女性連合会、高齢社会をよくする女性の会岐阜・大垣支部、新日本婦人の会 大垣支部、朗読の会 さわらび、いき粋墨俣創生プロジェクト、TuLiP（大垣女短ジェンダーについて考えるサークル）





## 毎年3月8日は、国際女性デーです！

国際女性デーは、女性の権利や政治・経済分野への参加に対する支援を盛り立てていくため、1975年に国連が制定しました。

女性たちが、平和と安全、開発における役割の拡大、組織やコミュニティにおける地位向上などによって、どこまでその可能性を広げてきたかを確認すると同時に、今後のさらなる前進に向け話し合う機会となっています。

海外では、母親や妻、友人など、女性に感謝を込めて、愛や幸福の象徴であるミモザの花が贈られます。

大垣市は、ミモザの花の色（黄色）でのライトアップや啓発展示を行いました。



TuLiP(大垣女短ジェンダーについて考えるサークル)が作成した展示物

### 男性の家事応援講座

## ミモザカップケーキを作ってみよう！

男性が家事に参加することを応援するため、料理講座を開催しました。国際女性デーにちなみ、ミモザをイメージしたカップケーキを作りました。

お菓子作りは初めてという方が多かったですが、皆さん美味しそうなカップケーキを完成させていました。出来上がったカップケーキはプレゼント用にかわいくラッピングし持ち帰っていただきました。



### 【参加者の声】

- ・主人が積極的にやってくれたので、家でも今以上に家事をしてくれると嬉しいです。
- ・家に帰って妻にカップケーキをプレゼントし、日頃の感謝の気持ちを伝えたいです。
- ・講師の先生が分かりやすく作り方を教えてくれたので、とても楽しくできました。家に帰って、また作ってみたいと思いました。

### 相談の窓口

ひとりで悩まず、困ったことがあればお気軽に相談窓口へご相談ください。

- |                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| ○ DV相談ナビ 短縮ダイヤル（最寄りの相談窓口につながります）      | ☎ #8008（はれれば）     |
| ○ DV相談プラス（24時間対応）                     | ☎ 0120-279-889    |
| ○ 女性相談【社会福祉課】月～金 9:00～16:00（祝日を除く）    | ☎ 81-4111（内線2470） |
| ○ 女性の悩み相談【ハートリンクおおがき】水・金・土 9:00～16:00 | ☎ 47-7188         |
| ○ DV相談プラス（メール、チャット相談）                 | 右記二次元コード          |



### 大垣市男女共同参画に関するメール配信

男女共同参画センター「ハートリンクおおがき」等で実施する男女共同参画に関する講座やイベントなどの情報を配信しています。ぜひ登録ください。



◆編集・発行 大垣市市民活動部 男女共同参画推進室

電話：0584-47-8549

Eメール：danjo@city.ogaki.lg.jp

—法務省 人権啓発キャッチコピー— 「誰か」のこと じゃない。